

高知県基本理念	学校経営理念	学校教育目標
目指す人間像 ・学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 ・郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 ・多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	○ すべての生徒が安全に安心して学び、活動できる学校 ○ すべての生徒が自分の居場所を見つけ、役割を感じられる学校 ○ 生徒、保護者、地域、教職員がつながる学校 ○ 故郷を愛し、故郷の未来を担う若者が育つ学校 ○ 教職員がワークライフバランスを実感し、仕事に充実感を得られる学校	地域からの熱い思いに応え、高い志を持ち、中高一貫の6年間を熱く語れる魅力ある生徒を育てる。
	学校経営方針	研究主題
	○ チームとして組織力を高め、全教職員ですべての生徒が安全・安心を感じられるようにする ○ 子どもの多様性を理解し、カウンセリングマインドを持って子どもに寄り添う対応 ○ ICTを活用した新しい学習システムを確立し、未来を見据えた学力保障をする ○ 子ども、教職員が地域とつながり、地域の未来を担う視点を持った教育活動 ○ 感染症等や事故から子どもを守り、常に命を大切にできる教職員集団を目指す	学習の目的に向かって様々な情報から根拠を明確にし、自分の考えや思いを意欲的に表現しあえる発問・学習活動の研究 ～生徒が安心して学べる居場所づくりをベースとした授業改善～

中期計画<令和6年度～令和8年度>					
現状<○強みと●弱み>		目標<3年後の到達指標>		行動指針<3年間の取組方針>	
基 本 目 標 等	確かな学力	○全国・高知県学力調査において全国、県平均を上回る数値が出せてはいる。 ○学校評価「わかりやすい授業が多い」90%、「教え方を工夫している」91.5% ●家庭学習時間の目標が達成できていない。	○全国・高知県学力調査の結果、平均より10ポイント以上。 ○学校評価「わかりやすい授業が多い」「教え方を工夫している」95%以上。 ○家庭学習時間調査で平日の学習時間を90分以上。	○各調査の結果分析を全教職員で行い対応策の検証と実践。 ○ICTの活用、授業スタンダードの確立、や生徒指導の三機能を意識した授業の構築。 ○家庭学習につながる授業での「ふり回り」「まとめ」を確実に行う。	評価 検証・評価<3年間の総括>
	健やかな体	○生徒が適切な生活リズムを心がけるよう、保健だより等で啓発ができています。 ●生活習慣調査、起床(6:30)33%、就寝(23:00)42%、睡眠(7h)53%、朝食97%、数値の低下があり、ネットやスマホの影響が考えられる。 ●全国調査において体格では全国、県を上回ったが、男女ともに柔軟性、瞬発力、持久力、を向上させる。	○基本的生活習慣調査における目標値、6:30までに起床80%、23:00までに就寝80%、7時間の睡眠90%、朝食をとる100% ○全国、高知県の体力・能力調査において体格、実技で男女ともに全国、県の平均を上回っている。	○保健体育、各教科の授業、特別活動等で横断的な啓発と、健康アンケート等を活用して課題把握しながらより良い基本的生活習慣の確立を図る。 ○体育の授業で継続した体力づくり、学校トレーニング室を活用しての体力向上。 ○「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の活用	
	豊かな心	○『道徳』の授業改善に取り組んでいる。授業アンケート平均結果4.6(5点満点)、学校評価「人権や道徳に力を入れている」87.8%。 ●学調質問紙「将来の夢や目標を持っている」76.9%(全国比+10.6)であったが、前年度より下がっている。	○道徳授業アンケート5点満点。学校評価「人権や道徳に力を入れている」90%。 ○全国学力学習状況調査生徒質問紙「将来の夢や目標を持っている」90%以上。 ○望ましい隠れたカリキュラムの実現ができ、発達支持的生徒指導ができています。	○「考え、議論する道徳」の授業実践と自尊感情や自己存在感を育む「生徒指導の三機能を働かせた授業づくり」。 ○望ましい「隠れたカリキュラム」の実現と発達支持的生徒指導の推進。 ○6年間の探求学習を通したキャリアプランの構築。	
	基盤となる体制等	○各種アンケートは計画的に実施し、スピード感を持ってチェックしSC、SSWに助言をもらいながらきめ細かい支援に努めている。 ●Q-Uアンケートでは要支援群の子どもは減ったものの0ではない。 ○毎月サポート委員会をSC、SSWも交えて実施し、全教職員、授業等に係る高校教員で情報共有をして対応できた。 ○授業だけでなくあらゆる場面でICTの活用がされてきている。 ●コロナ禍で学校自主防災組織NDSDの活動が難しい状況だった。 ●機械警備になったことから長時間勤務者は減ったが、大会や遠征等で部活動における勤務時間がどうしても多くなる。	○各種アンケートの活用 ・Q-Uアンケート(年2回)、第2回結果から不満足群、要支援の子どもが0 ・学校生活アンケート(年5回) ・健康アンケート ・不登校生徒が0になる。 ○全教職員での情報共有 ・生徒サポート委員会(毎月) ○授業だけでなくあらゆる場面でICTの活用 ○部活動において週2日の休養日の実施 ○防災教育・安全教育を通して学校自主防災組織NDSDとの連携 ○長時間勤務対象者0	○各種アンケートを活用したスピード感のある生徒支援。 ○望ましい「隠れたカリキュラム」の実現。 ○「SOSの出し方に関する教育」の実施。 ○発達支持的生徒指導の推進。 ○地域との関わり、地域と連動した防災活動、学校運営協議会の活用。 ○部活動指導員事業等を活用しての部活動の充実と担当教員の負担軽減。	
	不祥事防止等	○校内研修が充実してきことから職員の同僚性が高まった。 ○不祥事防止委員会の設置と研修をすすめた。	○教職員間の同僚性を高め、不祥事を起こさないよう管理職、教職員間のコミュニケーションがとれている。 ○不祥事について他人事でなく「自分事」としてとらえられている。 ○「他者を大事にする」きもちを持ち、個々の人権感覚が磨かれている。	○ボイスシャワーを心掛けた教職員間の声掛け。 ○相談体制の確立 ○不祥事防止委員会で検証しながら啓発、研修をすすめる。	

短期計画【確かな学力】<令和7年度>					
前年度からの課題	目標<到達指標>	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	年度末検証
○「めあて」「まとめ」「ふり回り」が各授業でできてきている。今後は「めあて」「まとめ」の整合性や、その質の向上をめざす。ICTの効果的な活用。 ○全国・県の学力調査の結果においては、平均を上回ってはいるが差が詰っている教科、下回った教科もあり、分析をして向上策の構築が必要。 ○R5年度学校評価アンケートの「わかりやすい授業が多い」90%、「教材や教え方を工夫している」91.5% ○教員授業アンケート・「めあて」の提示100%、「まとめ・ふり回り」ができて83.3% ・「わかりやすい授業になるように工夫している」100% ・「ICTを活用している」75% ○家庭学習時間調査・全学年で90分以上の目標は達成できていない。	○授業参観 ・「めあて」と整合性のある「ふり回り」「まとめ」が行われている。 ・各授業でICTを活用している。 ○全国学力学習状況調査、高知県学力定着状況調査、校内学力テスト ・教科目標値(全国比) 国語(1・2年・3年+5)社会(1・2年+10)数学(1・2・3年+15)理科(1・2年+10)英語(1・2年+5) ○学校評価アンケート ・「わかりやすい授業が多い」「教材や教え方を工夫している」95% ○教員授業アンケート ・「めあての提示」100%、「まとめ・ふり回り」ができて90% ・「わかりやすい授業になるように工夫している」100% ・「ICTを活用している」85% ○家庭学習時間調査・全学年で90分以上。	○授業参観 ・1時間の授業で「何がわかったか」「何ができるようになったか」を意識させる「めあて」「ふり回り」「まとめ」が行われている。 ・各授業でICTを効果的に活用している。 ○全国学力学習状況調査、高知県学力定着状況調査、校内学力テストの結果を各教科で課題分析し、対策について校内研修で共有。 ・教科目標値(全国比) 国語(1・2年・3年+5)社会(1・2年+10)数学(1・2・3年+5)理科(1・2年+10)英語(1・2年+5) ○校内研修、授業改善プラン、指導主事招聘等を通して授業改善を進め、学校評価アンケートの結果等から検証。 ・「わかりやすい授業が多い」「教材や教え方を工夫している」95%以上 ○教員授業アンケートで自身の授業づくりをふり回り、改善に繋げる。 ・「めあての提示」100%、「まとめ・ふり回り」ができて90%、「わかりやすい授業になるように工夫している」100% ・「ICTを活用している」85%以上 ○家庭学習時間調査 ・タブレットの持ち帰りなど工夫した課題を提起し家庭学習の定着をめざす。全学年で90分以上	管理職 <通年> 研究主 各教科部 <通年> 管理職 <12月> 進路部 <6月> <11月> <2月>		

短期計画【健やかな体】〈令和7年度〉						
前年度からの課題	目標〈到達指標〉	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
○6:30までに起床33%、23:00までに就寝42%、7時間の睡眠53%、朝食をとる97% 睡眠について、早寝、早起きの時間が遅くなっている。通学にかかる時間や、インターネットの使用時間が長い傾向にあり、睡眠不足への影響が出ている。インターネットの使用についてと生活について保健委員会活動と絡めて啓発を行っていく。 ○体力・運動能力において男子では握力・上体起こし反復横跳びで、女子では長座体前屈において全国を上回っている。その他の項目については授業前のランニングやストレッチを継続して行っていく必要がある。	○生活チェックアンケートにおける目標値 ・6:30までに起床50% ・23:00までに就寝80% ・7時間の睡眠80% ・朝食をとる100% ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査ならびに高知県体力・運動能力、生活実態調査において、男女ともに体格調査、実技調査で全国、県の平均を上回っている。	○保健だより等で保護者・生徒への啓発、保健体育の授業、特別活動等の時間を通して、基本的生活習慣と心身の健康の大切さを考えさせ、生活チェックアンケートにおける目標値の達成に取り組む。 ○全国、高知県の体力・能力調査において体格、実技で男女ともに全国、県の平均を上回っている。 ・「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の活用し課題である「柔軟性」「瞬発力」「持久力」を高め、本校生徒の運動能力全体の向上を図る。 ・保健体育の授業改善。 ○部活動や地域活動を通しての体力向上。 ・運動部活動指導員の活用 ・本校トレーニング室の有効利用。	養護教諭 全教職員 体育科 部活顧問 ＜通年＞			

短期計画【豊かな心】〈令和7年度〉						
前年度からの課題	目標〈到達指標〉	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
○道徳授業の板書をフロアに掲示することで、教職員や生徒が各学年の授業内容を把握することができた。「特別の教科『道徳』」における授業アンケート平均4.6(5点満点) ○学校評価アンケート ・学校での生活に満足している。97.8%以上 ・目標を持って生活を送っている。85%以上 ○「生徒理解」「SOSの出し方に関する教育」に関する研修を実施するなど、計画に沿って取り組むことができた。また、「SOSの出し方に関する教育」については、各学年で生徒の状況に応じた授業を行うことができ、継続した取り組みを続ける。 ○SC・SSWの参加・助言のもと、サポート委員会を定期的に実施し、生徒の現状把握や手立て等に関わった情報の共有をすることができた。	○道徳授業アンケート平均結果で5(5点満点) ○学校評価アンケート ・学校での生活に満足している。100%以上 ・目標を持って生活を送っている。90%以上 ○「SOSの出し方に関する教育」「生徒理解」に関する研修2回以上の実施 ○サポート委員会の毎月実施	○「考え、議論する道徳」をめざして「生徒指導の3機能を働かせた授業づくり」を意識した授業改善を進め、道徳授業アンケート平均結果(5点満点)で5となる。 ○望ましい「隠れたカリキュラム」の実現を意識し、子どもたちが安心して過ごせる雰囲気と居場所づくりに取り組み、学校評価アンケートや全国学力学習状況調査生徒質問紙等で検証する。 ・学校での生活に満足している。100% ・目標を持って生活を送っている。90%以上 ○発達支持的生徒指導を進め、教職員のアンテナを高くすること、またスピード感をもって子どもに寄り添うことができるように人権感覚を磨く。 ・「SOSの出し方に関する教育」「生徒理解」に関する研修2回以上の実施がされている。 ○子どもの状況や背景を把握し情報共有すること、中高一貫教育校として中高の教職員が一体となって子どもたちの支援にあたる。 ・サポート委員会(支援会)の定例実施。	道推教師 ＜9月＞ ＜2月＞ 全教職員 ＜通年＞ サポート部 ＜毎月＞			

短期計画【基盤となる体制等】〈令和7年度〉						
前年度からの課題	目標〈到達指標〉	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
○Q-Uアンケート(10月実施) ・1年 要支援 0名 ・2年 要支援 3名 ・3年 要支援 4名 ○多様な生徒の課題に対し、SC及びSSWの助言を得ながら、個別に対応してきた。不満足群や要支援の解消に向け、今後も対応等の継続が必要である。 ○サポート委員会の他、定期的に実施される中学校内での確認会の中に、学年の支援会議を設定することで、生徒支援につながる情報共有や対応が早期にかつ継続的にできるようになった。 ○学校評価アンケートの結果では、「学校での生活に満足している」肯定的評価97.8%、「よい学校にしようとする気持ちや雰囲気がある」肯定的評価90.8%、「悩みや心配事があるとき、教職員に相談している」52.8%であった。	○各種アンケート ・Q-Uアンケート(年2回)、不満足群、要支援の子どもが0 ○全教職員での情報共有 ・生徒サポート委員会の実施(毎月) ・不登校生徒が0になる。 ○学校評価アンケート ・「学校での生活に満足している」100%、「よい学校にしようとする気持ちや雰囲気がある」100%、「悩みや心配事があるとき、教職員に相談している」80% ○授業だけでなくあらゆる場面でICTの活用 ○学校自主防災組織NDSDとの連携・連動した防災教育・安全教育の構築 ○長時間勤務対象者0	○望ましい「隠れたカリキュラム」の実現と各種アンケートを活用して生徒支援に取り組む。 ・年2回のQ-Uアンケート結果から不満足群、要支援の子どもが0 ・学校生活アンケート(5回)、健康アンケート(2回) ○中高一貫教育校の強みである中高の教職員での見守りを進め、全教職員での情報共有し生徒支援の体制を作る。 ・生徒サポート委員会の実施(毎月) ・不登校生徒が0になる。 ○学校生活アンケート、Q-Uアンケートやきもちメーターを活用しスピード感ある生徒支援をしていく。 ・「学校での生活に満足している」100%、「よい学校にしようとする気持ちや雰囲気がある」100%、「悩みや心配事があるとき、教職員に相談している」80% ○授業だけでなくあらゆる場面でICTの活用(授業参観や家庭学習での活用) ○防災教育・安全教育を通して学校自主防災組織NDSDとの活動を充実させ、地域と連携した安全教育ができています。 ○退勤管理システムを利用して長時間勤務対象者0。	管理職 全教職員 人教主 ＜通年＞			

短期計画【不祥事を生じさせない職場風土づくり】〈令和7年度〉						
前年度からの課題	目標〈到達指標〉	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
○不祥事防止対策委員会で協議・検討し、あらゆる機会啓発・研修を行った。「自分ごと」として捉え、「他者を大切にする」「人権を大事にする」「規範意識を持つ」を全教職員で取り組むことが必要。	○同僚性が向上し、風通しのよい職場になり、不祥事防止を図れている。 ○不祥事について他人事でなく「自分事」としてとらえられている。 ○「他者を大事にする」きもちを持ち、個々の人権感覚が磨かれている。	○ボイスシャワーを心掛けた管理職、教職員間のコミュニケーションができ、校内での相談体制が構築され教職員が同僚や管理職に相談ができている。 ○「他者を大切にする」「人権を大事にする」「規範意識を持つ」きもちを持って業務にあたり、職員会や校内研の中で確認しあう。 ○相談体制の確立 ○不祥事防止委員会で検証しながら啓発、研修をすすめる。	管理職			